Tabとインデントの練習

練習の前に「ホーム」→「段落：編集記号の表示／非表示」をオレンジ色に設定し、「表示」→「表示／非表示：ルーラー」にチェックを入れて下さい。

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０

見出し1ここでのパターンは非常に良く出てくるパターンです。左インデントを3字に設定しているので、「見出し1」の先頭は4文字目になります。「見出し1」の後にtab文字が1個入り、その後に説明用文章が続きます。

見出し2tab位置を10字に設定しているので「ここでの・・・」は11文字目からはじまります。tab位置と左インデントの差は7文字なので、ぶら下げは7字です。これでちょうど説明用文章の左端が揃います。

見出し3このパターンは、箇条書きなどにも使われます。

(1)試験問題を作成するときもこのパターンを使います。問題番号の後に文章が続いて2行以上になるとき、文章の左端が揃ってないと見苦しいです。(1) の後にタブ文字を入れて、「タブ2字、ぶら下げ2字」に設定しましょう。

(2)タブとぶら下げインデントで左端を揃えているため、完璧に揃っています。(1) の後に半角スペースを入れる方法は、ぶら下げインデントが整数にならず、試行錯誤して決めないといけないので、美しくありません。

(10)タブとぶら下げインデントを使うと、数値が2桁になっても大丈夫です。ただし、場合によってはWordの文字詰め機能のため、左端が揃わないことがあります。

（い）これはオリジナルな箇条書きです。Wordでは「い、ろ、は・・・」ように、番号をつける機能はありません。

（ろ）となると、手動で打つしかありません。ここでは自分で「い、ろ、は」を打っています。

（は）この場合はタブなしで、ぶら下げ3字でもよいでしょう。あえて、タブとぶら下げインデントの練習をするために、このように設定しました。